

▼ 雑感：原爆と原発の『違い』、追記：エネルギー源か廃棄物源か ▼

<3.10了>

経団連・中西宏明会長（日立製作所会長）が 2.14 浜岡原発視察時に「原発と原子力爆弾が頭の中で結びついている人に『違い』ということは難しい」と発言したとのこと<2.21 朝日>。その意図は、「原爆」は“危険・恐ろしい”兵器で、「原発」は“安全・恐ろしくない”エネルギー源なのに、その両者の『違い』を再稼動に反対する人は理解していない＝自分らは正しく理解している、ということのようですが、本当にそうでしょうか。

原爆は、広島・長崎への投下のように、使用されれば1～数都市レベルで甚大な被害・放射線影響をもたらすことは明らかですが、使用を食い止めれば（保有状態は続いていても）その危険性は十分に回避可能です。一方、原発は、チェルノブイリ事故や福島原発事故のように、事故を起こせば県レベルでも収まりきらない広範かつ甚大な被害・より長期的な放射線影響をもたらすだけでなく、事故を起こさなくても使用済核燃料や高レベル放射性廃棄物その他の放射性物質を大量に生み出し環境に垂れ流し続け、300年など言うに及ばず数十万～百万年レベルの保管義務を後世に残す（強要する）ことも不可避です。原発再稼動論者こそ、原爆と原発とでは、核分裂する物質の量＝生み出される「死の灰」の量がまさに圧倒的に桁違いで、原発では（長期間の中性子照射により）多種多様で長寿命の放射性物質が刻一刻と大量に生み出されるという事実・『違い』を、正しく理解すべきです。

さらに、瞬間的な核分裂の破壊的エネルギーに頼る核保有国・核武装論者と、人類史から見ればほんの一瞬に過ぎない数十年間の核分裂の環境破壊的エネルギーに頼る経済界・原発再稼動論者こそ、自国・自社の「利益・利潤ファースト思考」と、自分が生きている間（だけ）“甘い汁”を吸えればそのツケ（核の脅威・放射性廃棄物）を未来世代へ押し付けることに心の痛みを一切感じないという「超無責任で自己中心的な価値観・倫理観」が、「頭の中で（強力に）結びついている」ため、何度批判されても『違い』のない（懲りない）言動を繰り返すのです。 <2019.2.23 記>

<追記> 中西氏は 2.25 に「表現不適切」として発言を撤回<2.26 朝日>。でも、上記のように「認識」そのものが不適切なのです。

同様に、『県民投票条例・女川2再稼動』に関して、村井知事が「エネルギー政策を一地方の首長が是とか非とかいうのは無理があると思う」等と発言したようですが<2.26 朝日>、再稼動問題を単なる「エネルギー政策」と考えるのは“認識違い”です（あるいは論議を矮小化させるための意図的な世論誘導?）。今は、これまで女川原発が生み出し続けてきた使用済核燃料・高レベル廃棄物や、今後確実に発生する1号機（+2・3号機）の廃炉廃棄物を、「敷地内保管」（東海原発で開始）するのか「他所へ押し付ける」のか等の深刻な「政策」課題・倫理問題（後世代に押し付けるという世代間倫理問題も含め）が‘突き付けられている’段階なのです。

2号機再稼動の前提として、女川原発由来廃棄物をどう処分するのか、広く議論することが必要です。また、東北電力の『発生者責任・説明責任』もキチンと問わなければならないと思います。 <3.10 記>